M. K. 英語英文学科・３年次

Ⅰ．留学レポート

①　協定留学を目指した理由

留学することは中学生の頃からの夢で、英語英文学科に入ったのも協定留学の制度があることを知っていたためでした。ですが、大学に入ってからの１年間は授業やサークルで忙しく、留学説明会に参加したり、TOEFL などの点数を意識したりし始めたのは大学２年生になってからでした。留学は 2016 年度春学期からの８か月間でした。

②　留学を目指してから出願までの英語学習方法

TOEFL や IELTS のテストを受けるまでに、大学受験時にも役立った単語本を読み返し、英単語の暗記に力を入れました。

③　留学決定から出発までの準備期間

語学勉強については、上述の通り英単語の暗記に力を入れました。ビザは戸籍謄本を取り寄せて英訳したものを用意し、オンラインにて申請しました。SEVIS 費用の支払い、面接予約など、ネットでの手続きが多く、それぞれが時間を要するため、早め早めの行動を心がけました。ビザが手元に届くまでに１か月ほどかかったと思います。また、予防接種のワクチンも期間をあけて打たないといけないものもあり、急いで取りかかりました。子どもの頃にも必要なものは受けていましたが、予防接種が全て終わったのは出発前ギリギリでした。また、この予防接種だけで総額８万円ほどかかりました。あとは留学費用の負担を少しでも減らすため、出発の１週間前までバイトをしていました。

④　現地到着後

チャタムのアドバイザーの方へフライト時間の連絡をしていました。その時間を考慮して空港から大学まで、スーパーシャトル（空港の送迎ワゴン車で有料）を予約してもらっていたため、それに乗りました。着いたその日は深夜で、そのまま寝て朝８時半から朝食、その後のオリエンテーションでルールや手続きなど諸々の説明を受けました。

⑤　語学研修期間

◆　語学研修先の施設・環境について

語学研修中も秋からの正規授業と同様、普段使用されている教室で授業を受けました。チャタムは都会の中心部から少し離れた丘の上にあり、自然も豊かで、リスやウサギ、鹿などを見ることができ、空気も澄んでいました。建物は美しい煉瓦造りの歴史ある建物で統一されており、毎日わくわくしながら授業を受けることができました。

◆　授業内容、課題、試験

スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングに特化した授業を受けていました。春学期間の月水金は９時から９時５０分までのコミュニケーションの授業と、１１時から１１時５０分までアメリカの映画の特徴や技法などを学ぶ授業を受けました。火木は１０時から１１時１５分までの文法の授業と、１２時４５分から１４時まではエッセイや

レポートの書き方、文法などについて学ぶライティングの授業を受けていました。どれも課題が多く、特にライティングの授業は書く量がかなり多かったので大変でしたが、力になったと思います。夏学期間は月から金、９時から１１時までのスピーキングとリスニングが一緒になった授業、１１時から１２時５０分までのライティングの授業を受けました。スピーキングとリスニングが一緒になった授業では TED をたくさん見ました。ライティングの授業は英語で詩を書いたり食レポしたりととても楽しかったです。

⑥　正規科目履修期間

◆　大学の施設・環境について

大学敷地内には 24 時間利用可能な（サマータームは除く）図書館や、カフェがありました。また、大学から徒歩 15 分ほどで大型スーパーや日本食品を置いているスーパーにも行けて便利でした。また、ピッツバーグ市内だとバスも電車も学生証をタッチすれば無料で乗れるのでとても助かりました。

◆　履修科目

◆　授業、レポート、定期試験

・Introduction to Sociology

社会学を学びました。社会学的専門用語がたくさん出てくるので、予習の段階で日本語に訳して内容を理解してから授業に挑むようにしていました。自分のアイデンティティについて深く考えることができ、面白かったです。授業の一環として人生ゲームもしました。テストは 1 セメスター中に３度あり、記述式問題と選択問題、短いエッセイを含んだテストでした。また、先生がとても親切にしてくださいました。

・American Culture and Cinema

春学期受けていた授業の先生と一緒だったのですが、教材が変わって少し難しくなっていました。アメリカ映画の特徴や技法が漫画で描かれていて、専門用語が多く、馴染みのない映画についてたくさん書かれていました。授業時間外に指定された映画を観てワークシートを埋める課題が多かったのですが、１０近くの映画を観ることができて、うれしかったです。観た映画や教科書の内容に関する選択問題と、短いエッセイを含むテストや、単語テストを何度かしました。

・American Literature

アメリカ文学に関して学ぶ授業でした。リーディングが課題で、授業中にワークシートをしたり、内容についての感想を話し合ったりしました。フィクション、ノンフィクション、色々な種類の話を読みました。作者に関する問題や授業で取り扱った話の内容に関する問題、初見のリーディング問題を含むテストを何度かしました。

・Chatham Semester International Internship Preparation Seminar

週１回の授業で、アメリカの会社や就職活動についてたくさん学びました。日本の文化と比較してみるとまったく違ってとても興味深かったです。履歴書やビジネスレター、面接なども実際に行き、何度かプレゼンもしました。先生はたくさんアドバイスをくださると

ても優しい方でした。テストはありませんでした。

・Hip Hop Dance

ダンスは不得意なので心配でしたが先生はとても面白く、楽しむことが大事！といったスタンスの方で、毎週わくわくしていました。とても楽しかったです。テストはありませんが、芸術に関するレポート６枚か、授業最終日に自分の特技（歌やダンスや楽器、なんでもあり）を披露して、レポート１枚を書くかの２択で、私はレポート６枚を選択しました。

⑦　クラブ、課外活動、ボランティア活動

クラブなどには参加しませんでしたが、他大学の学生が運営する日本の学生団体の集まりに行って情報交換したり、日本人や留学生向けのイベントなどはフェイスブックでチェックしたり、同女のみんなと何度か足を運びました。息抜きになってよかったです。

⑧　現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

春から夏にかけて、全校生徒が実家に帰ったりして少なくなるので Laughlin という基本的に留学生が集まる寮に滞在しました。ルームメイトは最初アメリカ人１人と、インド人の留学生 1 人でした。インド人の女の子は私が着いて２週間ほどで国に帰ってしまいましたが、一緒に大学のイベントに参加するなどとても仲良くなりました。また、アメリカ人の女の子とは、部屋に２人になってからしばらく気まずかったのですが、何度か話しかけてみると、音楽という共通の趣味で盛り上がりたくさん話しました。料理上手だったため、作った料理を分けてもらったり、お互いが旅行に行った際はお土産を渡し合うほどになりました。Laughlin は木目の床で、オレンジの電気、大変落ち着いた雰囲気で、安心しましたが、冷房が完備されていないため、夏の間は暑くて眠れず、夜中に目が覚める日々が続き、大変でした。私は３階の４人部屋に滞在していました。最終的に４人部屋に２人で住んでいたので広さは問題ありませんでしたが、熱気が上がってきてつらかったです。ルームメイトに扇風機を３台借りていました…。夏休み前に引っ越した新しい寮は Fickes というところで、廊下にずらっとドアが並ぶ床は冷たいシートのアパートのような寮でした。キッチン（シンクのみ、コンロなし）、バスルーム付きの４人部屋で、基本的に１年生が滞在する寮だったため、私のルームメイトは３人とも１年生のアメリカ人でした。一人は家から通う方が近いと言って出て行きましたが、他の２人と仲良く暮らしました。食事についてですが、ミールプランを選ぶように大学側から言われていて、私は週に１０回の食事、２万円ほどのフレックス（カフェで使えるお金同様のもの）のプランを選択しました。授業棟は丘の上、寮は丘の下で、通学は５分ほどでした。

⑨　長期休暇の過ごし方

夏休みは最初の５日間はシアトルに行き、その後はニューヨークに１０日間ほど滞在しました。春学期授業と夏学期授業の間の休みはカナダのケベックシティへ、サンクスギビングはワシントン DC へ行きました。帰国前の２週間はまたニューヨークへ行って１０日間友人宅に滞在しました。夏休み前に新しい寮への引っ越しができるよう事前に学生課に頼みに行きました。冬休みの滞在については、ネットでフォームを埋めて滞在願を出しました。

⑩　留学期間中の就職活動の取り組み

同女キャリア支援部からのメールは常にチェックしたり、説明会の内容を日本にいる友人に尋ねたりしていました。ビジネスの授業では自己分析に力を入れるなど、常に意識するよう心がけていたと思います。

Ⅱ．留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

韓国人の留学生の友達とホームパーティをして韓国料理を作ってもらったり、日本料理を作ったりしたのはとても楽しかったです。語学研修期間中仲の良かった中国人の友達とは、映画に行ったりビヨンセのコンサートに行ったり夜景を見に行ったりと、たくさん思い出ができました。また、カンバゼーションパートナーというプログラムで知り合ったアメリカ人の友達とは旅行に行ったり、家に行かせてもらってクリスマスツリーの飾り付けを体験させてもらったりと、とても良くしてもらえて運がよかったと思います。また、ケベックシティ、シアトル、ワシントン DC、フィラデルフィア、ニューヨークへは２回、たくさん旅行しました。日本からだとあり得ないほど安い交通費でいろんな所に行けて、とても楽しかったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

食堂のご飯が私の口にはまったく合わなくて辛かったです。あと引っ越した後のルームメイトのアメリカ人２人はまだ１７歳で、話すのも早く、スラングが飛び交い、言葉を理解するのも難しく、自分の英語力に自信をなくしてしまって辛かった時期がありました。が、最終的には他愛も無い会話ができるようになって楽しく過ごせました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

わたしのルームメイトのアメリカ人はみんな１０時か１０時半には寝るので驚きました。一番びっくりしたのは、部屋にあるお風呂から上がってドアを開けたら真っ暗だった時です…。たまに遅く帰った時には寮のシャワールームを使いました。それと、覚悟はしていましたが、やはりバスは定時には来ません。酷いときで２時間半バス停に立ち尽くしました。それと、クリスマスツリーはどこもかしこもとっても大きく、街のイルミネーションは眩しいほど輝いています！シーズン中にフィラデルフィア、ニューヨークへ旅行に行きましたが、特にニューヨークは感動します。かなりおすすめです！

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

全校生徒２００人ほどの小さな大学なので、先生の目は行き届き、授業は一番多くて学生４０名ほどで、先生は生徒全員の顔と名前を覚えてらっしゃいました。自然災害の影響でよくパソコンや Wi-fi のサーバーはしばしばダウンする傾向にありましたが、事務所の方の対応はとても優しかったです。ただ全校生徒２００人の中で日本人の留学生がとても多

かったので、日本語を話しやすい環境にあったと思います。一番驚いたのは夏学期の授業を同女の３人だけで受けたことでした。

② 日本から持っていって、特に役に立ったもの

留学を機にノートパソコンを買いました。基本的にライティングの課題、同女への提出物等すべてパソコンでしていました。竜巻、豪雨、雷などによるサーバーダウンが多かったのでパソコンは持って行った方がいいと思います。服は夏服ばかり持って行きました。実際寮は真冬も真夏の格好でいられるほど暖かいので、外の寒さに耐えられるアウターさえ持っていれば過ごせると思います。役に立ったものは 100 均の洗濯物干し、お湯で食べられる日本食、下着は１週間分、洗濯洗剤、洗濯ネット、日本の歯ブラシ（アメリカの歯ブラシはかなり堅いです）です。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

リスニング能力はすぐに上がりました。うまく答えられなくても相手が何を言っているかはわかるようになります。映画もアメリカ映画であれば字幕無しである程度理解できるようになりました。また、親元を離れ、８か月間基本的に英語しか通じない国で過ごした経験は自信につながりました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

私は何をするにも常に後ろ向きに物事を考えがちで、新しいことに挑戦したり一人で行動したりするのが苦手な性格でした。留学を機にそんな自分を変えられたと言い切れると思います。時には心が折れそうになりますが、TOEFL の点数がやっと合格点に達した時、学内選考を経て留学が無事決まった時の気持ちを思い出したら、嫌な気持ちは吹き飛びましたし、改めて英語が大好きなことにも気づくことができました。また、現地で何か困ったことがあれば、留学生のオフィスの方々に相談したほうが早く解決すると思います。なんと伝えればいいのかわからなくても、オフィスの方々は親身になって相談に乗ってくださいます。やりたいと思ったことはすぐに行動に移し、悔いの無い留学生活を送れるよう頑張ってください。

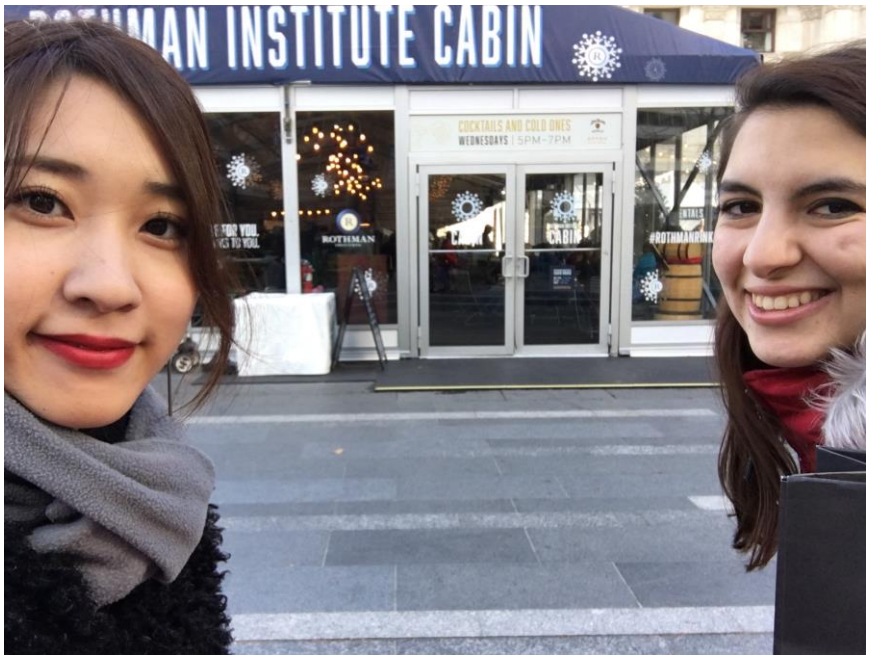
Ⅳ．将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

自分の英語力に磨きをかけるといった意味でも、英語を使ったお仕事をしたいと思っています。

Ⅴ．写真

中国人の友達と同女の友達と一緒にピッツバーグの景色を一望できるマウント・ワシントンという所へ行った時の写真です。春、夏、冬、と合わせて４回行ったほどお気に入りの場所で、とてもおすすめです。



ほぼ毎週一緒に遊んでいたアメリカ人の友達です。この日は実家に泊まらせてもらって、電車に乗ってフィラデルフィアへ旅行に行きました。クリスマスマーケットでホットワインを飲んだり、美味しいものをたくさん食べました。

韓国人、ベトナム人、同女の友達と一緒に、韓国料理と日本料理をみんなで作って食べました。

K. U. 英語英文学科・３年次

Ⅰ．留学レポート

① 協定留学を目指した理由

高校生の時から英語科に通っており、英語は私にとって一番伸ばしたい要素でした。ネイティヴスピーカーたちの英語に触れ、もっと自分の英語のスキルを伸ばしたかった為、留学を経験したいと思っていました。それで大学は協定留学ができるところを選び、入学当初からの目標にしていました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

大学生の１回生の夏季休暇中に TOEFL キャンプに参加しました。その際に私には IELTS が向いていると思い、IELTS で協定大学留学出願のためのスコアを目指すことに決めました。私は大阪の実家から大学へ通っていたので、通学中の間に単語帳を使い単語をひたすら覚え、自分で例文を作っていました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

留学が決定してからすぐに予防接種を受けることができる病院を探しました。アメリカで携帯を利用したかったので（ホテルなどを予約する際に電話番号が必須なので）私はアメリカの sprint と契約していて自分の日本の携帯を日本と全く同じように使えるソフトバンクのアメリカ放題を利用することにしました。銀行は新生銀行の口座を開設しアメリカからも引き出すことができるようにしました。

④ 現地到着後

現地へは、Chatham で留学を始める他の子達と３人で行きました。現地到着時間が夜中の１０時半頃でした。バゲッジクレームで荷物を待っても、持って行った２つのスーツケースの内、１つしか出てこなかったので、大学や寮の連絡先などを空港の担当者へ伝え、大学が用意してくださったスーパーシャトルで大学に向かいました。無くなった荷物は翌日のお昼には私の寮の部屋に届いていました。空港から大学までは車で４０分かからないくらいでした。オリエンテーションは着いた日の翌日から始まり、留学が４月末始まりということで私たち以外の留学生はあまりいませんでした。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

Chatham は大学内に語学学校が併設されており、自分で見つける必要もなくとても便利でした。施設内は綺麗でアドバイザーの方もとても協力的な方でした。語学研修期間は前半と後半の各６週間でした。初めにプレイスメントテストを受けクラス分けされます。私たち同志社女子大学の生徒は皆アドバンスクラスにいれられます。しかし私たちが行った際は生徒数が少なく、後半は先生１人に対して日本から一緒に行った友人と私の３人でした。

◆ 授業内容、課題、試験

授業内容は語学学校ですので主にベーシックなグラマー、ライティング、リスニングでし

た。ライティングはかなり課題が多く、毎日必死にしていました。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

大学は小さな丘の上にあり、静かで緑が多く過ごしやすかったです。敷地内には 24 時間警察が見まわってくれているので安心できました。夏の天気が良い夕方には寮の裏で蛍を見ることができるくらい自然が多かったです。

◆ 履修科目

・ Photography II - Introduction to Digital Photography

大学からミラーレスの一眼レフなどを借りて毎週１つのテーマに対し４０枚くらいの写真を提出します。テーマごとに自分の意見を発表し、プレゼンテーションを行います。授業内では、フォトショップなども教えてくださります。わからないところは先生に質問をしたり、友人に聞いたりして進めていました。

・ American Culture and Cinema

これはアメリカの映画について学びます。毎週先生に決められた映画を１本、放課後に鑑賞してクイズに答えます。俳優などを自分で調べてプレゼンをしたり、グループディスカッションをしたりします。

・ American Literature

これはアメリカ文学について学ぶ授業です。有名なショートストーリーを読んで感想を書いて提出し、学内の芝生へ出て感じたことを書いたりしました。この授業はリーディングとライティングが多かったです。

・ Chatham Semester International Internship Preparation Seminar

インターナショナルスチューデントのための授業でした。アメリカのビジネスについて初めに学び、それから自分の気になるアメリカの企業について調べて発表しました。先生が毎週お菓子を持ってきてくださりました。

・ Special Topics: Hip Hop Dance

運動系の授業も受けてみたいと思い、ヒップホップを選びました。ダンス初心者の私も楽しみながらついていけるような授業でとても楽しかったです。毎週先生が考えてくれるものを一緒に踊ります。学期末にはレポートを３枚提出するか、１つパフォーマンスをし、それについてのレポートを１枚提出しないといけないです。

◆ 授業、レポート、定期試験

私は、比較的ついていきやすい授業を選びました。課題はやはり日本の大学よりも多く、レポートもたくさんありました。アメリカ人の学生は日頃からも熱心に勉強していますが、定期試験期間中は本当に集中して真剣に勉強していました。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

カンバセーションパートナーというものに登録していました。登録すると、ほとんどの場合インターナショナルスチューデントと現地の学生で２人か３人程度のパートナーが決め

られます。パートナー同士で相談し、週に何回か会って話をしたり、遊びに行ったりしていました。あとは大学の外のジャパニーズアソシエイションに参加していました。

⑧　現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

私は少し他の留学生とは違い、合計３回引越しをしました。少ない子は１回だけでした。寮から教室までは５分もかからないくらいの距離で大変近く便利でした。食事は私には全然合わなくて、お米を日本食スーパーなどで買ったりして基本的に自炊をしていました。キッチンは寮に１つあり、アパートの部屋だと１つ１部屋にあります。

⑨　長期休暇の過ごし方

基本私は旅行をして過ごしていました。Chatham 大学は事前に申請をしておくと、休暇中にも滞在することができるので良いところだと思います。分からないことは早めにレジデンスオフィスに直接聞きに行くことが大切です。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

リクナビに登録し、日本の大学からのメールをこまめにチェックしていました。

Ⅱ．留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学を機会に様々な場所へ旅行をすることができたことです。
カナダのケベック、シアトル、ワシントン D.C.、ニューヨーク、シカゴに行きました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

辛かったことは意思疎通がやはり難しいことです。自分の思ったことははっきり大きな声で伝えないといけないです。私は、ルームメイトと後期にぶつかり、部屋を移動することとなりました。我慢をすることやこうすることが当たり前といったような考えはやめたほうがいいです。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

基本的に全部考え方が違うと考えたほうがいいくらいに文化や習慣が違いました。お皿を洗わない、シャワーは１週間に３回だけ、掃除はしないなどです。

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は歩いて１５分くらいの場所にカフェや、ドラッグストア、レストラン、服のお店など何でも必要なものを変えるような環境があったことです。あと毎日１回は何かイベントが学内で催されています。悪かった点はあまり食事が美味しくないところです。日本で当たり前に食べているものがとてつもなく美味しく感じます。

② 日本から持っていって、特に役に立ったもの

パソコンは必須です。日本よりもパソコンを使う機会が多いと思いました。あとは最初の３日間ぐらいのシャンプーなどの日用品です。そのあとは持っていく際に荷物になるので

大学の近くにあるマーケットで購入するのがいいかと思います。あとは少しの洗濯用洗剤などです。熱が出た際の熱さまシートもアメリカでは売っていないので持って行って良かったです。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

リスニング力はぐんと上がったと自分で感じます。あとは行動力や発言力ができたことなどです。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

何事もめげないで諦めないで挑戦してください。１人の人にダメと言われても、別の人に相談することで解決したりするので１回で諦めないで、何度もトライしてみてください。結局は、語学力も大切ですが自分で現地の人たちと仲良くなりたいという姿勢が大切だと感じました。

Ⅳ．将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

英語を使い、自分のためだけでなく人のためになることをしたいです。

Ⅴ．写真

私のアパートにてみんなで自分の国の料理をしてパーティーをした時です。

2016 年度（春ｽﾀｰﾄ・1 年）
Chatham University

大学で雪が積もった時に韓国人の友人と雪だるまを作りました。
冬はとても寒く、スノーブーツやロングのダウンジャケットが必須です。

日本とアメリカとベトナムの友人たちと日本食を食べに行った時です。

ルームメイトと食事に行った時です。

H. Y. 英語英文学科・３年次

I. 留学レポート

①協定留学を目指した理由

中学生の時にアメリカを中心とする英語圏の文化に興味を持ったことをきっかけに海外の大学で実際に授業を受けたいと考え、それから留学をしたいと考えていました。また大学での授業を通して、もっと高い英語力を身に着けたいと思ったことと、アメリカの実際の社会を自分の目で見て体験したいと思ったことも大きく後押しをしました。

②留学を目指してから出願までの英語学習方法

私は協定大学留学出願のための語学力テストとして IELTS を勉強しました。IELTS は対策として基本的な英語力を上げるだけでなく IELTS の傾向をつかむことが大事だと思います。まずは単語力をつけるところから始めました。IELTS は IELTS 専門の単語集もありますが、英語検定準１級の単語でも同じレベルなので私は英検準１級の単語集を使っていました。IELTS の傾向対策として IELTS 公式問題集である “Cambridge IELTS Student’s Book” を使用しました。IELTS は Writing と Speaking は自分で勉強するだけでは難しいのでオンラインなどで添削してもらうのもおすすめです。

③留学決定から出発までの準備期間

海外ドラマや映画を観てリスニング力を上げるようにしたり、英語の本を読んだり、楽しんで勉強できるように工夫していました。VISA の手続きや留学先の大学からの必要書類や飛行機のチケットなどの準備は早めにすることをおすすめします。VISA の取得についてですが、私は業者さんなどに頼まず自分で全てやりました。インターネットで調べて自分でできると思います。

④現地到着後

ピッツバーグ空港からはチャタム大学側が事前に予約をしてくれていた Super Shuttle という乗合シャトルを使って大学まで行きました。着いた次の日にオリエンテーションとプレイスメントを受けました。

⑤語学研修期間

最初の約４か月間は ELP(English Language Program)の授業を受けました。前期の Summer A term と後期の Summer B term の２つに分かれていました。Summer A term では Academic Communication Skills, Grammar, Academic Composition, American Culture and Cinema の４つの授業を受けました。Summer B term では Listening と Writing の２つの授業を受けました。前期は一つ一つの授業時間が長く、また課題も多い上に英語にもまだ慣れていなかったので毎日大変でしたが、授業をこなしていくうちに慣れていきました。後期は授業数も少なく時間もそこまで長くなかったのと、英語にもだいぶ慣れてきていたので余裕をもって毎日を過ごすことができました。

⑥正規履修科目

私は秋学期からの授業で３つのアカデミッククラスと２つの ELP のクラスを受けました。本当は全てアカデミッククラスにしたかったのですが、取りたい授業がなくなってしまっていたり、受講希望者が定員を超えてしまっていたりと登録できなかったこともあり、ELP の授業を取りました。授業登録は早めにすることをおすすめします。

・Academic Communication Skills (ELP)

語学研修期間で取ったものと授業自体は同じでしたが、先生が違ったため内容も全然違いました。この授業では TED や大学での講義の動画などを使ってリスニングをしたり、心理学や移民、難民問題などについての講義を聴いたりして、それについて話し合うディスカッション形式で授業をすすめるという内容でした。先ほど述べたように、担当する先生によって内容が変わる授業だと思います。この授業のレベルはアカデミックと同じくらいレベルが高くとてもためになったと思います。

・American Cinema & Culture (ELP)

こちらも語学研修期間で取った授業で先生も同じでしたが、使う教材や観る映画も違い、Academic Communication Skills 同様で内容が違ったのと、映画が大好きなのでもう一度取りたいと思い取りました。この授業ではコメディやディズニー、西部劇など様々なタイプの映画を観たり、アメリカ映画の歴史や映画の撮影方法などについて勉強したりすることができます。

・Multicultural Literature

この授業では様々な国の文化や考え方について文学を通して学んでいきます。他国からアメリカに来た移民の人の作品を多く読みました。日本について書かれた本も読みました。私はもっと文化について詳しく勉強すると思っていたのですが題材の文学を中心に勉強する形式だったので本の内容を読み解くことに必死でした。毎回１００ページほど読まなければいけなかったのでかなり大変でした。

・Internship for International Student

この授業ではアメリカのビジネスマナーについて学びました。主にアメリカでのビジネススタイルはどういうものなか、また就職時の面接の練習をしたりしました。先生から教わるだけでなく、課題やプレゼンテーションなど自分からも意見を出す機会も多く持てたので良かったと思います。

・Yoga

普段からヨガを教えているプロの先生からレッスンを受けました。週３回あったのでいいエクササイズになりました。リラックスヨガというよりは本格的なヨガで結構ハードでした。

⑦クラブ、課外活動、ボランティア活動

特にしていませんでした

⑧現地での住まい

現地では寮に住んでいました。食事は食堂やカフェテリアでミールプランが使えます。またスーパーマーケットなどもあるのでそこまで食事に困ることはありませんが、学校の食堂やカフェテリアのメニューはあまり種類がないので飽きてくるかもしれません。

⑨長期休暇の過ごし方

長期休みの間は基本的に旅行に行っていました。夏休みは２週間しかなかったのですが、ニューヨークとロサンゼルスの２か所に行きました。サンクスギビングの時はワシントンへ、冬休みはフロリダのオーランドに行ってきました。各地ともピッツバーグとは違ったので、様々なアメリカを見るという面ではとてもよかったと思います。せっかくアメリカに来ているので長期休みは色々な場所に行くことをおすすめします。

⑩留学期間中の就職活動の取り組み

特に何もしませんでした。

Ⅱ．留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

人との出会いが一番思い出に残っています。アメリカ人だけでなく様々な国から来た人達に出会えることが留学の良いところだと思います。その人達たちを通して様々な文化や習慣について知ることができたのはもちろんですが、人として一対一で関わっていくうち、友達になるのに人種や民族など関係ないのだなと気づくことができたのが一番大きな学びでした。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

留学開始当初は授業の英語を聞くことができても、自分の英語力に自信がなく発言ができずにいたり、日常的な英語が全然聞き取ることができず、友達が思ったようにできなかったりと、なかなかもどかしい思いをしていました。しかし、秋学期に入り英語にも慣れてきたと同時に、自分の英語について気にすることをやめ積極的に声をかけるようにしたら友達もできました。結果、色んな形の英語に触れることができ英語の能力が上がりました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

日本と比べて時間に対する感覚がルーズなのでそこは驚きました。バスは毎回というほど時間通りには来ないですし、スーパーなどで店員さんが喋りながらレジをするのでなかなか早く終わらなかったりすることが多々ありました。ですが、「日本だったらこうなのに」などと比べたりせず、自分は日本とは違うところにいるのだから違って当たり前だと認識してその生活に慣れていくことが大事だと思います。

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は、チャタム大学は小規模な大学で授業を受ける人数があまり多くなく、先生

との距離が近いというところだと思います。悪かった点は、私が行った May Mester と Summer Term は学生が全然いなかったのと、留学生が少ないので正規の学生と友達になりにくいという部分で友達ができやすい環境ではなかったところです。

② 日本から持っていって、特に役に立ったもの

ノートパソコンはどこでも使えてとても便利だったので持っていくべきだと思います。また日用品、例えば洗濯ネットなどは日本のものは丈夫なので持っていくといいと思います。あと基礎化粧品も日本のものが肌に合うと思うので自分が使っているものを持っていくといいと思います。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

TOEIC などの語学テストを受けていないのではっきりとした目安にできるものがないのですが、確実にスピーキング力は上がったと思います。行った当初は思うように話せなかったのですが、友達や先生との会話を重ねるうちに話せるようになりました。また語学研修期間にたくさんライティングの課題をこなしたので書く力も上がったと思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

この体験記の冒頭でも書きましたが、私は以前から留学をしたいと考えていましたがなかなか具体的な行動に移せず、留学の準備をするのが遅くなりギリギリまでかかってしまいました。留学したいと思ったらすぐに行動を起こすべきだと思います。迷っている人もいると思いますが、行きたいという気持ちがあるのであれば行くべきだと思います。残りの大学生活、人生の中で「留学をしていれば」と思ってしまうのであれば飛び込んでみるべきだと思います。留学は今までの人生の中でも大きな経験となりましたし、これからの人生の中でもずっと大事なものになっていくと思います。留学を通して、その国のことを知ることができるのはもちろん、日本についても知ることができる良い機会だと思います。もう決まっている人もまだ決めていない人も国際課へ行って情報を集めるなどすることをおすすめします。

Ⅴ．写真

とても仲良くしてくれた友達です。

ELP でフィールドトリップに行きました